

2004長井triathlonreport

第20回長井triathlon大会は、6月27日絶好の天気恵まれた中開催された。今年で20回、初めて大会を開いたころは、トライアスロンそのものも知られていないころで、警察も道路しよう許可を簡単に出してくれた。今年の大会は、「東北ブロック役員選手権大会」「triathlonサーキット戦第4戦」として開催。総合は、新潟県小野俊巳が制した。Triathlonサーキット第4戦は男子は酒田市加藤彰選手、女子は岩手県佐野智子選手が制した。

また、ブロック役員選手権大会は、秋田県の小宅選手が優勝、2位にブロック協議会の技術委員長である高橋悟選手、3位にサーキット戦の取りまとめ役である宮城県吉田勝彦副理事長が栄冠を勝ち得た。

《swim》 1000メートル



Swimは1000メートル、25m.を20回往復する。水温23度から24度程度、寒くは無い。長井のswimは寒いのが有名、ウエットなしで充分。Swim終了してBIKEに移る高橋悟選手。

《BIKE》 50 ｷｯ 10 ｷｯ × 5 周回



写真左
金築敬子選手、福島県
写真右
青柳史成選手、さいたま市



27 番齊藤啓吾選手仙台市
1 番はがもう光男、実行委員長でやがてメロメロ・



35 番渡辺瑞樹選手
写真左 32 番永田誠選手群馬富岡市



さて・・・この二人の鉄人選手は????
岩手県中川良治選手 58 歳、そして追従する選手は、岩手県佐野智子選手、佐野選手は女子総合優勝、中川選手も結局佐野選手の軍門に下るのだ・・・二人は、大会終了後実行委員と共に 2 次会に、つよ～い鉄人でした。いやはや参りました。



小林弘明選手、栃木県から参加



BIKE に移ることは、炎天下の暑さ、まさに triathlon 日和というところか、各選手は暑さに諸共せず力強くペダルをこぐ。急激な上りはないものの、だらだらとした坂がいやらしい。周回チェックは一箇所、BIKE 減速でナンバーカードをチェック。



《run》10キロ
Runに移るころは最高の暑さが選手を歓迎する。ショートの部は5キロだから余裕綽々だ。106番はショートの部3位東北大学広富真也選手。七ヶ浜も頑張っ欲しい





50歳代の部2位、宮城県横山清治選手、今年は年齢別を秋田県小宅選手に譲った・・・



53番は安達雅史選手、山形泌尿器科クリニック院長先生だ。本大会の特別協賛。安達先生の後ろから軽快な走りで62番井上史子選手が追う、と思ったらたちまち抜き去った。なんと井上選手がrunの最高タイムを出し、女子総合3位に食い込む。



26 番福島県湯田通選手 63 歳、とても 63 歳には見えない。58 番は女子優勝 佐野智子選手、男子顔負け・・・。 46 番桐沢一幸選手、鶴岡市出身。47 番高林秀一選手新潟県、49 番仙台市 宗像選手。



山形市からの参加、高橋光広選手で会社社長、激務の中当日参加である。ま、とりあえず完走ということで。



ナンバーカード 6 番は小林弘明選手、105 番はショートに参加松永京子選手で、神奈川県からの参加、103 番は岩手県小瀬川選手、8 番は隣の川西町からの参加須貝幸一選手、下 2 番は宮城県 triathlon 協会事務局長片桐勝一選手、片桐さんは 4 日開催の七ヶ浜大会の事務局も勤める。超多忙な毎日であったが長井大会のブロック役員選手権大会に参加、したの写真山形県山形市出身、佐藤治直選手、3 時間 41 分 58 秒で今大会最も楽しんだ選手だ。





右写真は西内秀一選手、シドニーについてアテネ Olympic に出場を決めた西内洋行選手の父君、軽快なレース運びで最後まで他を圧倒した。右 60 番は千葉純子選手、夫婦で参加してくれた。



56 番は、おしんレース事務局 長加藤彰選手、総合 2 位、triathlon サーキット優勝。左 BIKE は酒田加藤豊選手、おしんでは巧みな司会を担当、17 番は塩沼惇一選手

《懇親会》 乾～盃!!!



懇親会はタスパークホテルで開催、まず20年連続出場の新潟県斉藤健選手に感謝状授与、齋藤さんの乾杯で和やかに開始。夫婦・親子で参加の選手にも特別賞、古山選手は triathlon は欠場となったが表彰式には参加、渡辺瑞樹選手は家族で、二人はこの大会が縁を取り持った。



《お詫び》男子の記録がトラブリ遅くなった。最後の手締めをするのは、深沢則仁君、山形県の triathlon 発祥の人だ。来年の大会を誓い合っ